中学教材用ロボット開発

末広のメーカー「イスペット」

中学校の技術教科で、生徒が、コンピューターのプログラムを組むことまで求められるようになったのを受け、三木市末広3の教材メーカー、イスペットが、小型コンピューターで動かすロボットの教材を開発した。学校の教員らと論文を手掛け、学会誌に掲載されるなど、技術教育の発展に力を注ぐ。（中川　恵）

小型コンピューターで制御

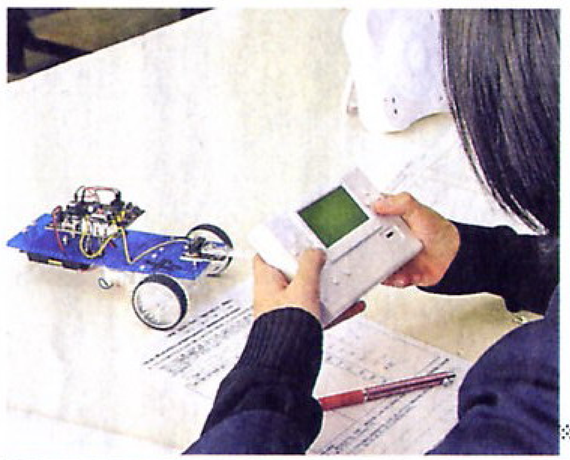
「技術教育の大切さ訴えたい」

2012年度から完全実施となった学習指導要領で、技術の単元「プログラムによる計測・制御」が必修になった。この単元では、センサーやコンピューターの働き、プログラム言語などを学ぶ。

しかし、学校によっては、パソコンのある教室で授業をしなければならなかったり、学校のパソコンにソフトを入れることができず、既存のプログラムを修正することしかできなかったりし、悩む教諭らもいたという。

そこで、同社は小型コンピューターと、それで制御するロボットやライトを開発した。同社の教材を使う魚崎中学校（神戸市東灘区）の教員、加賀江孝信さんは「パソコンのある教室ではなく、技術室でわいわい言いながら授業ができる。インターネットで遊ぶ心配もありません」と話す。

同社の藤田眞一社長は、加賀江さんらと教材の学習効果も検証し、学会誌に採用された。藤田社長は「ものづくりにおいて、理科や数学と技術は両輪。技術教育の大切さを訴えたい」と話した。



（上）ロボットを手にプログラムの組み方を指導する加賀江孝信さん（下）技術室で使える小型コンピューター＝いずれも神戸市東灘区、魚崎中

少年サッカー「ボアソルチFC」

近畿大会に出場

3年ぶり2度目

三木市の広野、三木小学校を拠点にする少年サッカーチーム「ボアソルチFC」が14日から堺市で開かれる近畿大会「第37回関西少年サッカー大会」に出場する。県大会3位で、3年ぶり2度目の出場

るボアソルチFC
市大塚2、三木小

幼保連携型認定こども園

市立一部維持し民間主

三木市は就学前児童の教育・保育について、幼稚園と保育所の両方の機能を持つ「幼保連携型認定こども園」へと移行し、市立園を一部維持しつつ、民間主導型の運営にする方向性を示した。就学前児童の保護者に対してアンケートをしてお り、集計や協議、説明会を経て、2015年9月ごろに、幼保一体化計画をつくる。

市内には市立の10幼稚園と4保育所、私立の1幼稚園と10保育所がある。民間へ切り替える理由は、私立の在籍児童数は市立の1・7倍▽私立補助金の国や私立の1了し担が料の

3人乗り自転車

レン

小野市は、幼児を乗せられる「3人乗り自転車」の無料レンタル事業を2012年度末で、終了する県内で最も早く、3月から実施しているが、電動アシストのバッテリーやタイヤなどの更新が必要で費用もかかり、市安全部は「普及や啓発に一定の役割はたした」としている。

09年7月から、開された専用自転車を乗り、6歳未満の幼児人を乗せることができるようになり、市は

はりまカルチャー　今週のおすすめ

■東播磨の美しさ紹介

「ひがしはりま四